

平成15年度老人保健事業推進費等補助金（老人保健健康増進等事業）

（1）介護保険制度の推進・定着のための支援事業

痴呆ケース用共通アセスメント・ケアプラン方式を活用した
継続的チームケアに関する実践研究

社会福祉法人 浴風会

高齢者痴呆介護研究・研修東京センター(報告書 A4 版 2 頁)

事業目的

14年度研究事業で開発された「痴呆ケース用共通アセスメント・ケアプラン方式（以下、センター方式とする）」の完成をめざし、センター方式を、在宅、グループホーム、施設と利用者の多様な居所のケースに試行し、実効性の検証を行うとともに、改善点を明確にする。

加えて、センター方式を用いて今後、継続的なチームケアを展開する上で重要な研修および教材のあり方を検討し、教材作成と研修の試行、検証を行う。

事業概要

（1）研究委員会の設置および開催

研究者ならびに痴呆介護指導者等14名からなる委員会を設置。研究会を開催し、センター方式および研修に関する企画、検証を行う。

（2）センター方式のチームでの活用を推進するために、研修カリキュラムモデルを作成。試行と検証を行った。

センター方式推進員研修カリキュラム（推進員用）

センター方式研修カリキュラムモデル（実務者用）

（3）センター方式の活用を推進するための、教材開発を行った。

（4）センター方式を活用した試行と検証の実施。

試行前、試行一ヶ月後、三ヶ月後の3時点で、フォローアップ調査を行った。

事業結果

（1）センター方式03版の開発

研究者および痴呆介護指導者等の討議を通じ、昨年度のアセスメントシート項目および記入書式の再検討を行い、5つの視点と5領域のアセスメント構造からなるセンター方式03番を開発した。

（2）研修カリキュラムモデルの開発

以下の、2つのモデルを作成、思考しアンケート調査をもとに検証を行った。

センター方式推進員研修カリキュラム（推進員用）

センター方式研修カリキュラムモデル（実務者用）

両モデルともに、現場実践者の限られた時間内に研修を効果的に展開する上での課題として、シート記載方法の学習の前提として、新しい痴呆ケアの視点およびセンター方式のねらいを確実に伝える時間配分や方法の必要性が示唆された。

(3) センター方式の活用を推進するため、以下の教材開発を行った。

センター方式03版推進研修資料(冊子38ページ)

センター方式03版記入ガイド(冊子14ページ)

(4) センター方式を活用した試行と検証の実施。

試行前、試行一ヵ月後、三ヵ月後の3時点で、フォローアップ調査を実施した結果、センター方式の導入によってケアマネジメント関係者の約7割に、利用者本位の視点でその尊厳や自立をチームで推進していくケアマネジメントが可能になる実態が確認され、センター方式の有用性が示唆された。センター方式シートの実用性に関しては、記入のしやすさやケアプランへの展開のしやすさ等に関する具体的改善点が明らかになった。

センター方式の有用性が確認されたことにより、その実用性をさらに改良しつつケア現場で導入・活用することにより、チームの系統的展開のためのケアマネジメント手法の共有化、その結果としての新しい痴呆ケアの普及、共通方式による実践データを活用した痴呆ケアの標準化等が進展することが期待できる。

また、今年度開発された研修モデルや教材をより現場にそくしたものに改良し、活用することを通じて、痴呆ケアおよびケアマネジメント両領域の人材育成に貢献できる。

事業実施機関

社会福祉法人 浴風会 高齢者痴呆介護研究・研修東京センター

〒168-0071 東京都杉並区高井戸西 1-12-1 電話：03(3334)2173